

“良い就活と悪い就活” 人事採用の経験から

2010年7月19日

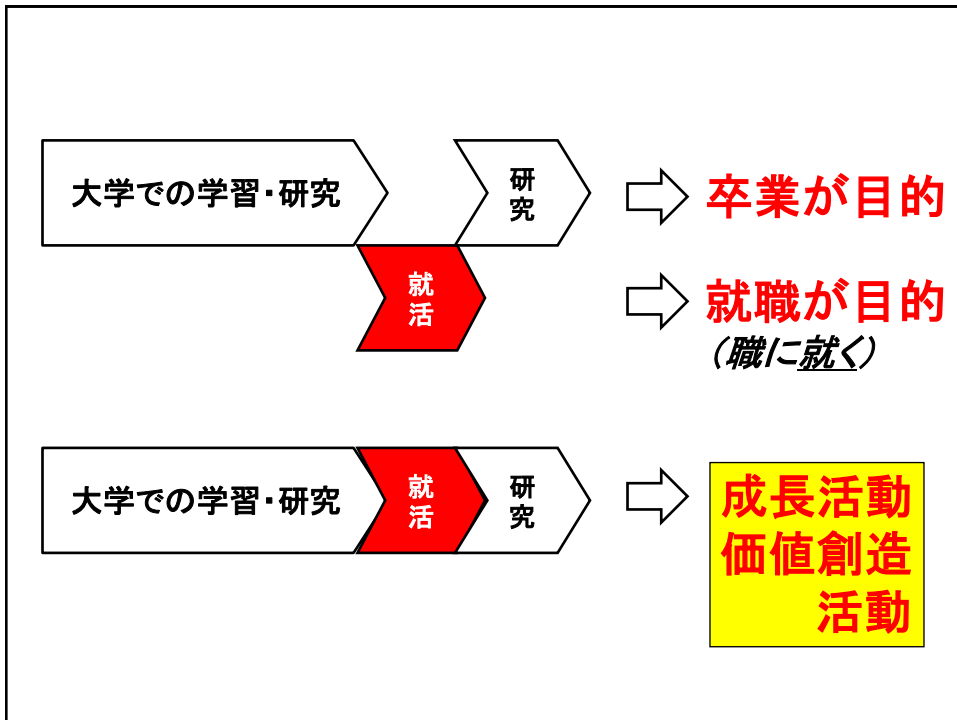
籠橋 雄二

就活は、

『社会を知る』こと

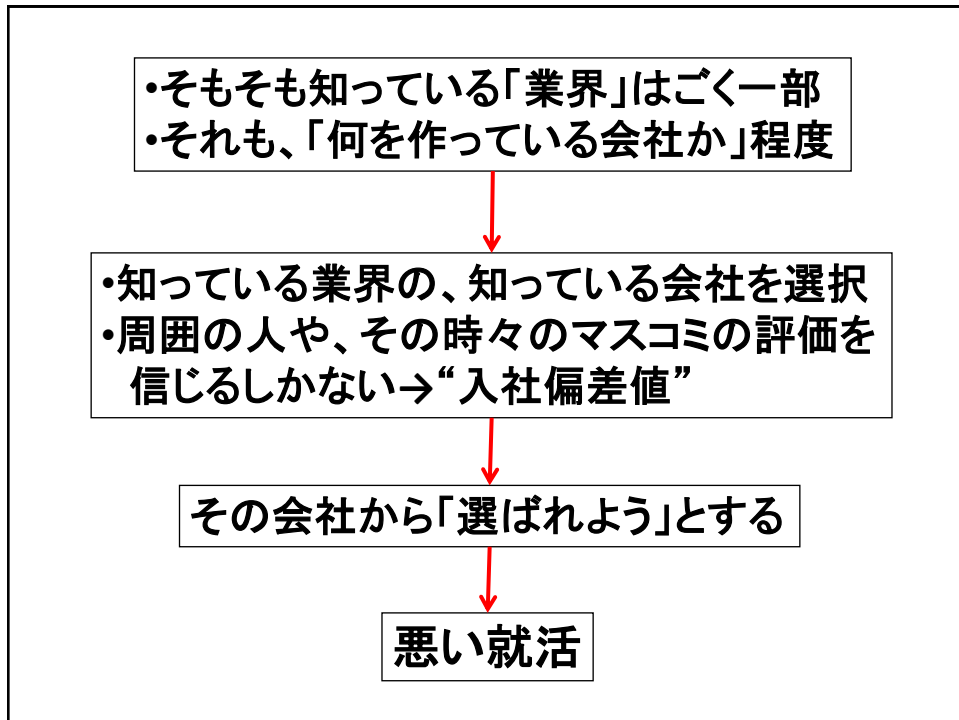
『企業を知る』こと

『自分を知る』こと



悪い就活

- 就職偏差値の高い企業へ就職したいと思うこと
- “内定取得”を目的とした就活
- 自分を良く見せようとする就活
- 『自分』を見失った就活(面接)



具体例)

- 製薬企業の面接に来た
- But 自分が何をしたいのか不明:そもそも鳥居薬品なんか聞いたこと無い



「人々の健康に貢献する仕事がしたい」
「御社はJTとの役割分担をされており、世界の先端に行く」

「品質管理で試験をしたい」
「測定機器は使ったことがあり、自分は仕事ができる」

「自分はコミュニケーション能力が高い」

「質問は特にない」「他の企業は、食品で品質管理部門」

良い就活

そもそも『知らない』ということを知っている
 ・『仕事』って何か？
 ・『企業』『この会社』って何か？
 ・『自分』の価値(会社にとっての強み)は？

- ・自分が成長できそうな企業選択
- ・“自分に合った企業かの確認”を目的とした就活
- ・あるがままの自分を伝える就活
- ・『自分』を再発見する就活(面接はそのChance)

・そもそも知っている「業界」はごく一部
 ・それも、「何を作っている会社か」程度

↓

・知っていそうな人(知人の医師)に聞く
 ・説明会に行き、いろいろ聞いてみる
 自分で評価する→“入社偏差値”無視

↓

自分をさらけ出し、摺り合わせをする

↓

就活は『対等』な活動

↓

良い就活

具体例)

- ・製薬企業の面接に来た
- ・自分に何が出来そうなのか確認する:これまで自分が評価した結果を面接で確認することも



**対等な関係で
会社発見と自分発見**

「人々の健康に貢献する仕事がしたい」
 「工場・研究所見学で皆明るかったし、知人もマジメな良い会社と」
 「今は研究に興味があるが・・・何が出来るか分からない」
 「やったこと無いが、製造現場も面白そう」
 「これまで頑張ってきたのは・・・」(自分の強みはよく分からない)
 「質問はいっぱいある」「特に拘りがあるわけではなく、自分に向けた会社」

一貫性(成長も一貫性の一部)



『付け焼き刃』の就活対策は、双方の不幸を招く

「就活時期の化粧」は自分の価値を落とすだけ
 →『時、既に遅し』